

“V18”の山野哲也選手、PN2満点チャンプも確定!



第3戦エビス西で「通算100勝」を数え、第7戦菅生西で18回目のタイトルを確定させた山野哲也選手。第9戦恋の浦の完全勝利で有効満点チャンピオンを確定させてメモリアルイヤーを締めくくった。



季のタイトル争いは、第8戦までにPN2山野哲也選手、PN3ユウ選手、SA1若林拳人選手、SA3小沢洋平選手、SA4津川信次選手が2018年タイトルを確定させており、今大会ではPN1やSC部門でのタイトル確定が予想されていた。

ここ恋の浦で開催される全日本ジムカーナでは、残暑厳しい開催時期の天候と、攻撃性が高いと言われる独特な路面状況から、第2ヒートでのタイムアップが難しいとされている。

今回も多くのクラスで第1ヒートで勝負が決する展開が見られたが、すでに第7戦菅生西でタイトルが確定しているPN2では、山野哲也選手が第1ヒートに後続を3秒以上引き離す、1分42秒264という驚愕のベストを計測。

しかも、数々の記録保持者に相応しい、さらなるタイム更新を2本目にやってのけたのだ。

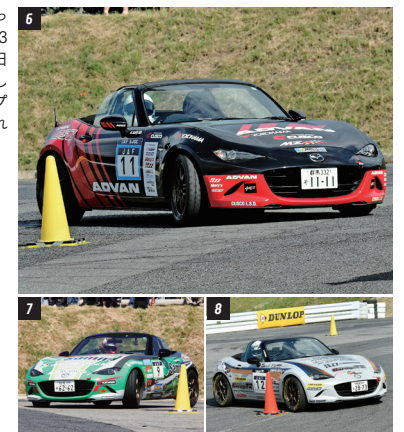
第2ヒートのPN1では、12台中9台がタイムアップならず。そしてPN2では1分45秒台がやっと。ペナルティに沈んでいた松本敏選

手が44秒台に迫ったものの2位に留まった。

最終走者の山野選手が刻んだタイムは何と1分42秒177。自己タイムを約コンマ1秒更新した、2本ともベストの完全勝利だ。このタイムは2WD勢で総合シングルに入るものだった。

「今回は金曜からずっとトップタイムを維持することができたんだけど、今回は脱輪判定がとんでも多く取られていることを、決勝の出走前に場内アナウンスで把握できたんだ。それで、脱輪しそうな2箇所に関しては、より多くマージ

PN2 / 1.PN2表彰台。優勝した山野哲也選手は「今回は例年とは逆にPN2が速かったよね。レイアウトや路面状況や天候によって、こんなにも違う傾向が出るんだなって勉強になった大会だったね」と驚きの表情。2.松本敏選手が2位。3.中根卓也選手が3位。4.井上賢二選手が4位。5.いながわひろゆき選手が5位。PN1 / 6.斉藤邦夫選手が優勝で11回目のタイトルを確定。「今日は無理をせず確実に1本目でタイムを残して、福田選手に抜かれても仕方がないとは思ってた。1本目はいきなりオーバーランしちゃったけど、後半ではミスなく完璧な仕上がりでした。これくらい長くやっても、最終戦に持ち越す状況は、緊張もするしプレッシャーも掛かる。ジムカーナはペナルティとか天気とか不確定要素が多いから、最終戦の前に思い通りにタイトルを決められたのが良かったです」とは斉藤選手。7.小林キュウテン選手は2位。8.福田大輔選手は3位でタイトル争いに破れた。



ンを確保する走りに切り替えた。その2箇所を除いては出来る限りのことをやり尽くして、パイロンセクションではいつもより寄せることができたのが、このタイムに繋がったかな。

今回は金曜日にとっても面白いことが見つかって、いつもはバネを替えたりいろいろやるんだけど、今回はタイヤのエアしか変えてない。

こんなことはまずないんだけど、その面白い発見を試したら、いい方向に出た大会だったね。

こう語る山野選手は、最終戦・鈴鹿南をアジアムカーナ参戦により欠場するため、7勝目となる今回の勝利で『画竜点睛』、2018年PN2チャンピオンを『有効満点』で締めくくった。

なお、今大会では、PN1は斉藤邦夫選手が2

年連続11回目、SCでは西原正樹選手が2年連続9回目のチャンピオンを確定させている。

残るタイトル争いはPN4とSA2となり、PN4は茅野成樹選手と野島孝宏選手というベテラン同士の一騎打ち、SA2では沖縄の高江淳選手が、若手の佐藤巧選手を相手に、初タイトルを賭けた最終戦・鈴鹿南対決に挑むこととなった。



PN3 / 9. 第1ヒートでは途中でスロウダウンしたユウ選手。第2ヒートの1本勝負で優勝してみせたが……「2本目は山野さんが凄いタイムを出してきました。ちゃんと走れば出ると思いましたが、ノーペナルティで帰るのは厳しいし、地元スペシャリストが暫定トップという、いつもと違う状況に『最近こんな緊張したことあったかな?』と思うくらい緊張して(笑)。かなりリズムを崩しました。まだまだ修業が足りませんね」と苦笑する。10. ユウ選手を追い詰めた2017年九州PN2チャンプ・山下友秀選手は2位。11. 抱浦高選手が得意な恋の浦で3位。PN4 / 12. PN4表彰台。優勝は茅野成樹選手だが「実はサブプロクで失敗して、野島選手とコンマ3〜4秒違ってたので結構ヤバかった」と語る辛勝。13. 野島孝宏選手は2位でタイトル争いを鈴鹿南に持ち越した。14. 沖縄の石原昌行選手が3位。



SA1 / 15. 優勝は小武拓矢選手。「公開練習ではクルマが曲がらなくて苦戦してんですけど、本番では新しいタイヤを信じて踏みまくって、メリハリを付ける走りを目指しました。ライバル(一色選手)のペナルティに助けられたところもありましたが、1本目でまとめられたのが良かったですね。イオックスでボロ負けして、見直したアシのセッティングも奏功しました。」とは小武選手。16. 志村雅紀選手が2位。17. 第1ヒートのミスが悔やまれる一色健太郎選手が3位。SA3 / 18. 久保真吾選手が2位。19. 髭部光二選手が3位。20. 優勝は小保洋平選手。「クルマはキマってるし、緑石に載せて走る方がタイムは出るんですけど、

昨年のコースみたいにそれが少ないとヤバかったんですが、今年はそうでもなくて助かりました」と笑顔。SA4 / 21. 優勝は津川信次選手。「今日は90点くらい。走りの出来としては2本目のほうが高かったんだけど、欲をかって、ゴールでギリギリに抜けたら出たらタッチして、それがカッコ悪かったね。後半のターン6連発は、四駆にとって進入や脱出の角度をすべてキメるのは結構難しい。直線が長いコースで改造車よりいいタイムが出せたのは、やはり後半の連続ターンで稼げたからかな」とオーバーオールタイムをゲット。22. 菱井将文選手はタイムダウンで2位に終わる。23. 佐藤裕樹選手が3位。



SA2 / 24. 優勝は高江淳選手。「今までは練習でタイムが出なくても、決勝で勝てればいいやと思ってんですけど、ポイントリーダーの現在は、それだと不安になっちゃって(笑)。もう一度前半戦の気持ちに戻って、自分の走りできるように切り替えました。1本目は8割程度の出来でしたが、予想以上にタイムが出てビックリでした。恋の浦で歴代チャンピオンの助言とオーラもらったので、それが効いたと思います(笑)」と安堵の表情。25. 佐藤巧選手が2位で高江選手と一騎打ちに持ち込んだ。26. 朝山崇選手は3位に終わり、4連覇の権利が消えた。SC / 27. SC表彰台。優勝は西原正樹選手。「決勝では1本目にSタイヤ、2本目は05-Dを選び、05-Dが非常に良くっていいタイムを出せました。ジムカーナはSCが最速じゃないといけないので、最終戦の鈴鹿ではオーバーオールを獲得できるよう精進します」と、タイトル連覇確定ながら厳しい表情。28. 大橋渡選手が2位。29. 野尻隆司選手が3位。